

《発行所》  
曹洞宗中国管区教化センター  
〒722-0033尾道市東土堂町17-29  
TEL.0848-25-2855  
FAX.0848-25-4148

《印刷所》  
プリントショップ・イトウ  
TEL&FAX.0849-26-2304

目次	
・ 統監ごあいさつ	2
・ 教化主筆ごあいさつ	3
・ 誌上法話	4
・ サマーセミナー	6
・ 禅をさく会	8
・ 布教協議会・講習会	10
・ 青少年教化指導者研修会	11
・ 婦人会	12
・ 14	13

## まごころに生きる

### 平成十二年度 布教方針

正法の興隆と曹洞禅の宣揚を願ひ、信仰心の確立を促し、教化宗団「曹洞宗」として、「人権・平和・環境」を教化の柱とし、「まごころに生きる」仏道修行の展開を図るため、次のごとく、布教方針を定める。

特に、地球環境をまもる全曹洞宗の運動「グリーン・プラン」と、道元禪師ご生誕八百年慶讃行事ならびに七百五十回大遠忌予修法要を推進する。

一、仏法僧の三宝に帰依し、一仏両祖を奉祀して、宗門の教えを学び、仏教徒としての正しい信仰心を育む。

二、本尊唱名「南無釈迦牟尼仏」の敷衍をはかる。

## 曹洞宗宗歌

大内青巒 作詞

花の晨に 片微笑み  
雪の夕に 臂を断ち  
代々に伝うる 道はしも  
余処に比は あらゆる磯の  
波も得寄せぬ 高巖に  
かきもつくべき 法ならばこそ

三、道元禪師ご誕生八百年を祝ひ、慶讃行事ならびに七百五十回大遠忌予修法要を奉修する。

四、一人ひとりの人権を尊重するとともに、あらゆる差別の撤廃のため啓発教化に取り組む。

五、戦争の惨禍と自省を忘れることなく、いのちの尊厳を自覚し、世界平和の実現に向けて努力する。

六、自然の恩恵に感謝し、環境との調和につとめ、もののいのちを生かし合う生活を営む。

七、授戒会修行を奨励し、生前受戒をすすめる。

八、海外における禅の国際的高揚にこたえ、布教教化の充実発展を図る。

九、教義の実践である菩薩行としてのボランティア活動を推進する。

# 統監ご挨拶

統監

光善寺住職

松原 徹心



国際暦二千年という今世紀最後となります今年も、恰も高祖様ご生誕八百年の年でございます。

難遇のご縁を、宗門の僧として如何ように受用しているかと、切に問いました。

\*\*\*

本職を拝命してやつと任期が見える頃、職員と共に再任命が下りました。皆が思う事もありましたので、職員一同と共に倍旧の意を添え謹んでお受け致しました。

どうか、今期も宜敷くご道情をたまりますよう御願ひ申し上げます。

\*\*\*

当地方に本社を置くP外食産業社が発行している社内報(四月号)に、「ありとあらゆる産業が大きく変貌を遂げる中、外食産業と一寸の遅延も許さ

れぬ。時代と共に、お客のニーズは変化する。(中略)『変えるものと、変えてはならぬもの』を的確に判断しながら、スピーディーに実践していかなくては……。』と、P社の年度初めの挨拶文を読み、痛く考えさせられました。『全国教化センター連絡協議会』から帰山した直後であつただけに。

\*\*\*

新年度前期の、『全国教化センター連絡協議会』は一泊二日、宗務庁の研修道場で開催されました。

種々ご指導いただきました今年度の布教方針に加えまして、

一、各集いに宗歌を斉唱して、正伝の仏法を奉観する意識の啓発を。

一、寺院・檀家の法要に、つとめて「南無釈迦牟尼仏」の稱聖号を、共に正しい合掌をして唱和する。ことが勧められました。

\*\*\*

人権学習では、前日が伝道部の柚木課長から「業について」と、題された講義をいただきました。

見方・考え方の根底を鋭く宗学からの追究は、問われ通してありました。翌日の井上泰子先生(大阪箕面市中央文化センター)は、ご自身が被差別地区の方と結婚され今日(四十七才)までの苦闘を、「きつと笑って会える日」という題の詩に作られ、それが題の切々なご講演でありました。

\*\*\*

肉親の葛藤は、まさに地獄です。愛する人の為、いや人間として犯してはならない尊厳平等の為に、その地獄に立ち向かわれ必死に説得運動を続けられている姿は、これこそ菩薩行であるといいただきました。

痛く考えさせられたことは、無常が観えない布教は仏法不在であると。

高祖様は「徧界不離蔵」と、さらに太祖様は「釈尊の仏法は到らざる所なし」と。この両祖様の仏法に生かされる者はすべてが仏道であり、それが即布教ではありませんか。

変えなくてはならないものと、変えてはならないものを、混同することは決して許されないと。 合掌



岡山県宗務所

土本 祥善

## 「現代の教化」

はからずも不肖、浅学非才を顧みず私ごときものが務めることになりました。多勢の方々のお力添えいただきながら、務める所存であります。

どうか宜しく願ひします。

修証義の第十八節に「菩提心を発すというは己れ未だ度らざる前に一切衆生を度さんと発願し営むなり…」私達は誰しも「幸」でありたいと願っています。

ところが昨今の経済は不況不況と言われています。その中であつて特に我国はあらゆる資源は海外での依存であります。よって事起れば崩壊する楼閣的な不安感に過ぎない現状です。そこで何か考えさせられるのであります。

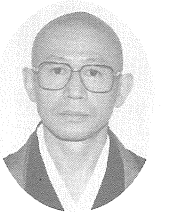
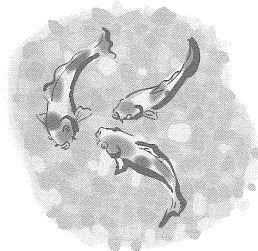
「宗侶としての役割とは何であるか」遺憾ながら仏教界に対する批判じみた記事を見かけることがあります。なかのことは、今しきりに二十一世紀は心の時代といわれていることと、私

ども宗侶(教化者)との結びつき大なるものを感じるのであります。いったい何を考えすべきであるか、お互いに研鑽を積み、世の人々の不安を取り除き、平和を願いつつみんな助け合つた暮らしができる世の中をつくらうと、努力しなければならぬのではないのでしょうか。

それゆえにまずもって、私達宗侶は「自未得度先度他の心」を發さなければならぬと思ひます。

そして、それがあつてこそ、より平和で豊かな生活をお互いが営むことができるのであります。

私どもはつねに多くの方々に対し、大衆教化という言葉を使いますが、それは菩提の心を發して、先ず人のため世のためにという大願を目的とした実践業を積極的に行うことだと思つております。



広島県宗務所

林 一成

## 「教化にむけての抱負」

当山の年始の行持に巳午(新仏の正月供養)と、最近教化の一端として始めた涅槃會があります。

寺から一山越えた鏡浦町の檀家さんは、両行持のお参りの人数が実に極端なのです。巳午は新仏の家(平均四、五軒)をおつとめした後、寺まいりと称して合同で再度本堂でおつとめをします。この寺まいりが圧巻で仏事につかれた方は、まさにヌーの大移動のごとく集団で一山越えた当山になだれこみ、みるみるうちに本堂を埋めつくします。年中で本堂が一杯になるのはこの時です。お寺まいりをしないと気がすまないという共有した信仰心が、長い歴史の中でいつとはなしに、自然と培われていったように思ひます。

一方涅槃會は、先祖供養併修も実らずここ数年、一人の参拝者もなしというお手上げの状態です。

思うに教化の実践は、必ずしも実ら

ない時もあり、善縁が重なって実を結ぶ時もあるようです。己の教化を第一と考えるものが、他を教化していくと信じたものです。



山口県 宗務所  
吉川 俊雄

「土くさい教化へ」

山は荒れ村まで下りてくる。田畑はセイダカ草が群れる。老人だけの集落になる。全国がこの様に変化する。人権、平和、環境の問題の全ては、この光景の中にある。地域の再生、地方の時代とさげばれても、虚しく聞こえる。開発、開発の大合唱は何だったのか。広い道路が残っただけの気がする。

ある老夫婦が、「子供の処へ行くようにしました。」と、云いに来た。「残す家は心配だが、墓だけは寺にあるから安心」と、ポツリと云う。無力ではあるが、これだけでも救われた気がした。世は無常である。必ずまた、人々は戻ってくる。そう信じていきたい。それはいつの時代か分からないが。その



時まで、疲労を生ずることなく「以水為命知りぬべし」開発より開発だと、唱え続けよう。そして、大きなイベントと同時に県から教区、教区から請組の数ヶ寺での教化へ。寺が地域の精神的核であるためにも、地域を大切にしたい有機性の高い、土くさい教化が肝要だ。

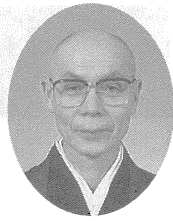


鳥取県 宗務所  
長曾 龍生

「教化の抱負」

このところ宗教界に対する逆風が吹き荒れている。もつとも、『オウム』だとか『法の華』だとか、果ては『ライフスペース』などという途方もない教団ばかりがマスコミを賑わしているのだから、世間の人々は、宗教は怖い物、インチキなもの、だからなるべく近づかない方がいい。と思ってしまうのも無理からぬことだ。さらに云えば、既製にしろ新興にしろ、人間の欲望を煽り立てるような御利益信仰教団が花盛りである。

けれども、私たちは幸いにしてお釈迦様や道元禅師様の本物の教えに出会っているのではないか、この混沌の時代に私たち僧侶が声を大にして本物の宗教を説かなければどうするんだ!!という強い意気込みで臨もうと、なで肩に力を入れまくっている私です。



島根県第一宗務所  
門脇 利法

「布教化雑感」

高祖承陽大師道元禅師のご生誕八百年の勝縁を各位と共に衷心より慶讃申し上げます。

島一宗務所の教化方針は、特別揚げてはありませんが、所長老師のお考えに継続している事として、私共現職宗侶が、綿密な日々の行持を土台にして、宗侶の自分を内省しつつ現実社会に伝えられる布教化の態度方法を、実参実究をすることでありませぬ。

平成十一年度宗務所現職研修会は長崎暗台寺堂頭「大田大穰老師」を拝請しご指導を賜り、道心堅固の心を振り起こされたと共に、何かホッとしました気持ちを持たせて頂きました。

更に、中国管区布教講習会に於ける、「丸子孝法老師」の自らの厳しい体験を通しての、法話指導、実践の研修を受けました。丸子孝法老師の説得力は、ともすれば現実世相のはざままで、憶し、躊躇しているとの声も聞かれる時、時



島根県第二宗務所  
岩田 泰成

「今年の教化の抱負」

道元禅師ご生誕八百年の記念すべき年を迎えた今年は、様々な慶讃の行事を通して道元禅師のご生涯を偲びつつ、その教えを現代の家庭生活に生かす教化をと考えています。

平成十二年度の現職研修会では、今、宗侶の最も苦手とも言える、壮青年層等の現状とそれに対しての布教化の方法・在り方を共に参究したいと準備を進めている所でもあります。心の時代と言われ乍ら、実に背筋が寒くなることから多発している今、淨行を土台に、温かい共生きの心で、一句一偈の法を示される生き方を学びたいと願っています。

主な慶讃行事として主管となる管区檀信徒集会は、慶讃法要の他講演、対談、「権茸典座」の狂言等を企画しています。この集会は、禅をきく会、宗務所檀信徒研修会を併せ行い、より多くの檀信徒が道元禅師についての理解を深める良き機会となるよう、宗務所一丸となって取り組むつもりです。宗務所本山研修は大本山永平寺での一泊研修の後、禅師のみ跡を慕う祖跡巡拝を予定していますし、また教区等においても意義ある慶讃行事ができたらと考えています。ご生誕八百年という尊いご縁にめぐり合えたこの一年は、道元禅師の教えを広めていくには恵まれた年と言え、この好縁を機に、家庭仏法の確立に向けた教化活動を進め、意義ある年にしたいと思っています。



## 誌上法話

## 道元禪師御生誕八百年によせて

●長安寺住職

久保 孝道



西暦二千年もコンピュータの誤作動等の不安感を抱きつつも、幸い無事に迎えることができました。しかし喉元過ぎれば熱さ忘るるで、全世界の人々が、多かれ少なかれ、人間の創った文明の利器を謳歌し、享受しながらも、一度自然の大なる摂理から外れると、とんでもない惨事に陥るであらうことを予感なり、実感させられました。

又とない、現実生活の場においての好箇の経験でした。時代と共に、否が応でも文明という名のもとの環

境に暮らしながらも、人間の本来もっている生命力、活力を失わないようにしたいものです。

本年は時恰も、道元禪師御生誕から丁度八百年に正當いたしました。二年後の七百五十回大遠忌と共に、私たち道元禪師の教えを奉ずる者にとって、又とない勝縁に恵まれたわけでありませぬ。

八百年といい、七百五十回といい、時代は移れども、私たちから切り離せられない、人間にとっての根本的なおしえを今尚説き示して

おられることを、決して忘れることなく、護持し、伝えていく誓願を新にすべき時であります。

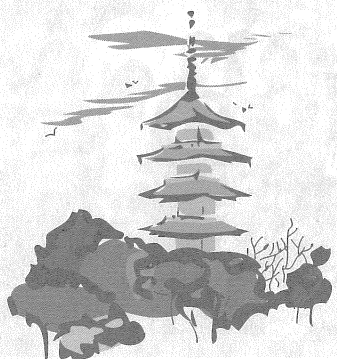
道元禪師お示しの「仏道をなろうというは自己をなろうなり、自己をなろうというは自己をわするるといふは万法に証せらるるなり云々」の一章は、八百年はおろか、釈尊成道の時から未来永劫人類が自覚すべき、み教えそのものであります。

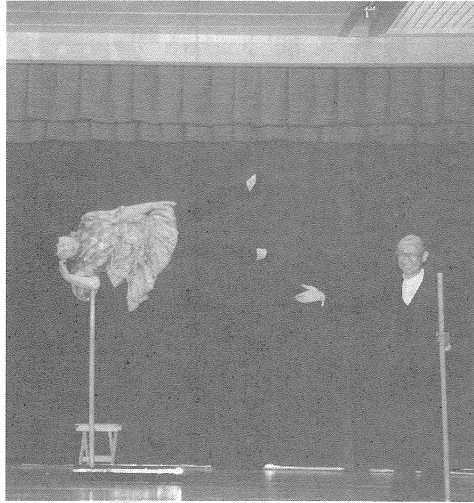
いつ、いかなるところにても、自己をなろうという日々の生活の中の功夫、参究を忘れさせなければ、仏道のまったただ中に居ると道元禪師はやさしく導かれています。

又、「まのあたりに先師をみる、これ人に逢うなり」

との道元禪師のお示しは、慕古という言葉でも表されていますが、つまるところ自分自身にあう、自己をなろうということになるのではないでしようか。

道は近きにありながら、却って遠くにもとめるおろかさや改め、今八百年という歳月を前にして、道元禪師の御生誕から示寂までの御一代の行履を辿りながら、禅師お示しの道にかなった一時を体感し、法の中で、道の上で道元禪師に親しくまみゆることこそ、御生誕八百年にあたり、二年後の七百五十回大遠忌と共に、報恩謝徳の浄行として私たちが奉修すべきことと思えます。



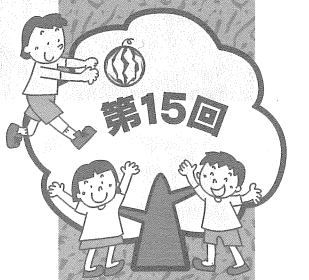


ぼくは、二年ぶりにこのサマーセミナーに行くことになってとても楽しみにしていたことがありました。それは、林先生のマジックです。林先生のマジックを見ると、とても楽しくなつてきます。そして、さいごのほうには、とてもすごいマジックがでてきます。このさいごにでてくるマジックがぼくは、いちばん好きです。

今回のさいごにでてきたマジックは、もうかなりすごいものでした。林先生のおくさんがういたのです。このマジックにはとてもびっくりしてこえもで

### 林先生のマジック

小川 真吾(小6)



# 親子ゼンインサマーセミナー



### つらかった三日間

三戸 宏太(小5)

ぼくは、今年初めてサマーセミナーに参加しました。

ぼくは、原田君に、さそわれて入って、行くときは、「帰るとき、ちゃんと帰れるかな。」とか「ブリちゃん＆マジカルショーの「ブリちゃん」て何だろう?」とか「どれくらいの人があるんだろう。」「先生はどれくらいいるのかな。」「どんなホテルなのかな。」など、いろいろな思いがありました。

開会式が終わった後、ざぜん、ゲーム、お話など、いろいろなことが、ありました。

その次の日も、宮島観光や、紅型染実習、プール、キャンドルサービスなどいろいろなことをしました。

他にも、さよならパーティーなど楽しかったものに、つらかったものがあった、つらくて楽しい三日間でした。

その中で、楽しかったことは、ブリちゃん＆マジカルショーとプールに入ったことや宮島観光に行ったことで、つらかったことは、キャンドルサービスと、おふろに入るのが九時だったこと、朝早く起きてざぜんをすること、そして一番つらかったのは、夜まくら投げをして、なかなかねられなかったことです。

そして、最後の日の、さよならパーティーのときのぼくは、食べて、その後は名し交かんって感じで、なんかすぐに終わってしまいました。

帰るときは、ぼくと原田君で、電車で帰りました。

先生のみなさん、あの三日間、ざぜんなど、いろいろなことを学ばせていただいて、ありがとうございます。

ぼくは、このセミナーに参加して「お寺の人は、大変だなあ。ざぜんをしたり、お経を読んだり大変だなあ。でも、とっても楽しかったからまた参加したいな。」と思えました。

昨年、セミナーから戻った時「是非、来年も。」と思っていました。願い通り、今年も参加させてもらい、多くの事を得ることができ、感謝しております。

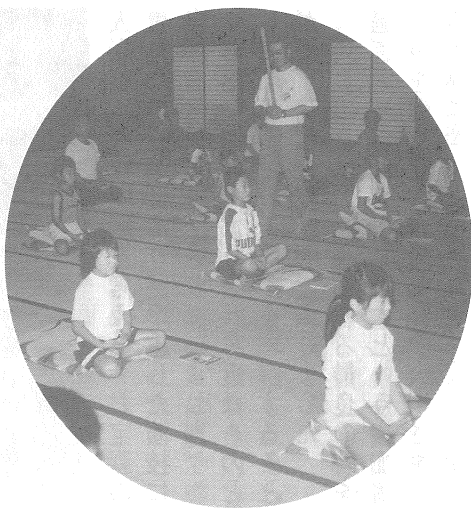
ゲームでスタート、網師本先生のパワーにぐんぐん引つ張られ、「きたぞ、きたぞー!」といった感じでした。次は松原先生のお話。毎日、何気なくしていた食事。改めて、多くの命のおかげで生きているのだ、と思いました。林先生はマジックをご多忙の中、いつ練習されるのでしょうか。ラッキーな

### 充実した三日間

足立 小百合

ませんでした。ぼくは、このマジックを見てあらためてすごいなと思いました。そして来年もまたきて、林先生のマジックを見たいなと思います。

そして、ぼくには、もう一つ楽しみだったことがあります。ひろさちや先生のお話です。ひろ先生のお話はとてもわかりやすくとても楽しいです。今回のお話でいちばんたのしかったのは、アリとキリギリスのお話です。いろんなアリとキリギリスのお話をきいてとても楽しかったです。らいねんは、どんなお話がきけるかたのしみです。



ことに、マジックを二つも教えてもらいましたので、一味違った思い出ができました。

ひろ先生のお話を聞き、生活を見直すことができました。「物に自分の心が映る」「少欲知足」という言葉が特に残りました。

上園先生に教わった紅型染。色を塗り終わるまで見られない自分の作品。完成して喜ぶ子ども達の顔が印象的でした。

指導員の、先生方一人一人の思いの伝わる三日間、大変楽しく過ごさせて頂きました。ありがとうございました。また、六班の皆様、たくさん喋って、たくさん笑って、楽しかったです。参加された皆様と、またご縁がありますように。

# 禅をきく会 岡山

岡山県宗務所 副所長 和気 弘宗

## 静寂の中に 自己をならう

平成十一年度「禅をきく会」は、六月二十三日岡山県高梁市「高梁総合文化会館」に、各地から千余名が集い盛大に開催されました。

参加されたみなさんに、「禅」に対する理解と感心を深めていただくため、その取り組みについて、教化センター松原統監老師を中心に周到な準備を進めてまいりました。

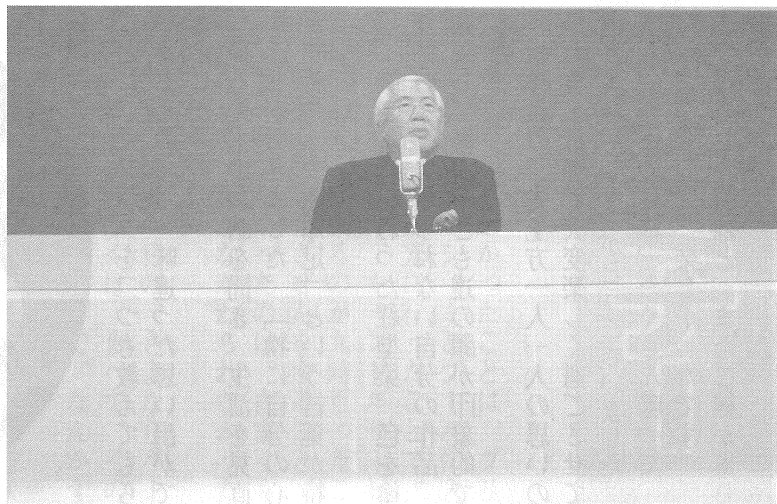
当日は、同会館において午前十時から、宗務所護持会の総会が開催され、県下各地から寺院住職・各寺の護持会長が参集していただきましたので、午後の「禅をきく会」はこれに加えて、各教区に要請（これは宗務所が行う各種の研修・学習・大会等において参加者確保のため）

め、宗務所会・護持会役員会において協議し、参加人員を定める）した檀信徒・加えて宗務所婦人会・青年会の積極的な参加があり、会場が満席となりました。

講師に服部栄養専門学校の服部幸應先生をお迎えして「食育のすすめ」と題してのお話しを拝聴しました。先生は知名度も高く参加者も熱心に耳を傾けていました。

”子供の成長に知・徳・体があるが、これに加えて食育が大切である。食育は健康教育に止まらず、全ての命の尊厳を学び地球環境にやさしい心を育てると力説”

坐禅では、先ず参加者に椅子坐禅の説明、開幕すると統監老師を中心に宗侶・寺族・一般の代表が端坐している姿が表れ、鳴らし物を入れて僧堂の雰囲気や漂う中に会場と一体化して静寂の心が刻まれました。つづいて”劇団さ・だんま”による



人形劇「環境問題を考える・お宝森の鬼丸」の上演があり、卓越した演技に参加者全員が魅了されていました。

お話しを聞くよりも、身近なものとして環境問題の大切さを理解することができた大変好評でありました。久しぶりに「心が洗われる最良の時を過ごさせて頂きました」という参加者の声を聞く時、布教実践の大切さを感じみと感じているところでもあります。

# 禅をきく会 鳥取

鳥取県宗務所 庶務主事 明里 好弘

爽やかな秋空の下、平成十一年十月一日、米子市文化ホールに於いて、禅をきく会が三百数十名の参加者のもとに開催されました。

当日、私は、宗務所の職員として受付等の業務に追われましたが、途切れ途切れに会場の様子を伺ったときの感想を述べさせていただきます。

講演は、作家・矢崎節夫氏が、詩人・金子みすゞについてお話になりました。二十世紀から二十一世紀への接点となっている今日、氏は、詩人・金子みすゞの作品を通して、目に見えない世界をもみつめ、耳に聞こえない世界にも耳を傾け、より広く、より深く、より優しく大自然の真実の姿をみつめ、人間として決して失ってはならない、あたたかさを持つことを力説されました。

次に、中国管区教化センター統監、松原徹心老師は、「上求菩提、下化衆生」の視点に立って坐禅堂の単から離れて、椅子坐禅を実践指導され、禅の



最後に、この会を企画・運営された関係者ならびに会場準備等に携われたみなさんがたの労苦に感謝しつつ所感いたします。

心を提唱されました。今、あたかも自己を見失いつつあるとき、このたびの坐禅は、あらためて自己を正しくみつめる良い機会を与えていただきました。

演劇、講演、坐禅等々、限られたわずかな時間の中に、盛り込まれた内容は、参会の皆さんがそれぞれに肌で感じ、心に刻まれて、帰宅されたことでしょう。

# センター布教協議会・講習会

島根県 国正寺 中川 浄明



平成十一年九月十六日・十七日の両日、島根県松江市のホテル白鳥において、センター主催の布教師協議会・講習会が開催され、約七十数名が受講された。

人権学習、講義ⅠとⅡが二日間行われ、講師に千葉県長寿院住職 篠原鋭一老師をお迎えして「現代宗教事情から見た寺院のあり方」、二日目には「近未来を予測し、何をすべきかを考える」―自信を持って葬儀を行うための共通認識課題―と題して、講義を受けた。

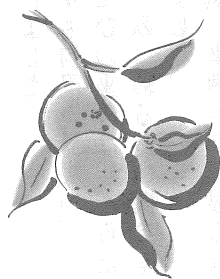
現在の社会現象や一般人の考え方、新潮流に目を向けねば、お寺は三十年後には崩壊しているかもしれないとして、「危機意識」の重要性を提議され、取り残されない為にはどうすればよいか、葬儀は僧侶の使命と積極的意義を見出し、自信をもち行い、単に儀式の儀礼とならず、死者、送る人、生きている人にとって「生死の一大事」を

学ぶ得難い場・時であると認識されるよう、納得のいく葬儀をしなければならぬ。

この激動の時代に「生き直し」を希望している現代人は、伝統教団に期待しており、手を差し伸べられるのは住職であり、また開放型寺院作りの取り組みにその解答がいくつもある。

社会的経験を積み、国際感覚を養い、一般人との交流を行わねば、取り残され相手にされない時代がきている。

私共葬儀を行い、戒を授ける導師としての自覚を厳しく問い直さなければならぬのではないかと講義を受けて感じた次第である。

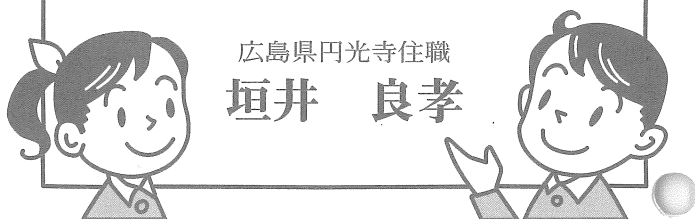


足」の一文「私には人に負けないことがある。私には手足が無い」の例を示され、加乗四段の方程式・人生の方程式を説明され、きっかけはどこにでもある、説法、説教、法話を説くことが僧侶の根本的使命とお話を受けました。

二日間の研修を終え、日頃の生活を自省するとともに、自分でできる活動をしていきたいと思えます。

## 青少年教化指導者研修会に参加して

広島県円光寺住職 垣井 良孝



昨年の六月に竹原市で開催された青少年教化指導者研修会に参加させていただきました。「ゲーム指導」では岡本浩彰老師より、キャンプファイヤー(又はキャンドルサービス)について場所、準備、プログラム等、すぐに実践できるところまでご指導いただき、その楽しさをお話いただきました。私の教区の青年会では、毎年八月「楽しい子どもの集い」を一泊二日で開催しております。私はこの研修を活かし、キャンドルサービスを会員のご協力により実践してみました。スムーズには

いかなかったのですが、出しもの等子どもたちも自分で考え発表し、充実したものになりました。

人権学習では、元小学校校長の小川環先生が「命・人権」と題して講演されました。人権は命の問題と話され、孫のおしめを替えながら、母はこのようにして自分を育ててくれたとの思いが、母の命を輝かせたいと母の介護に向かせた。現在の母を介護している生活、家族、地域を通し、六曜、部落差別などの問題を、ご教示いただいた。

私は役場で福祉の仕事をしています。介護保険など高齢者の介護・福祉が大きく変動している中、制度などの形だけでなく「命・人権」を大切に考えさせられる研修でした。

特派布教師、丸子孝法老師は「今、青少年は我々僧侶をどう見ているのか」と題して、この研修会のために近鉄奈良駅前で青少年に対してアンケート調査をおこない、その内容を基に、講義していただきました。良い評価もありましたが、何をしているのか分からないなどの意見もあり、お坊さんなら、どう生きなければならぬか。考えさせられました。

二日目の「折々に伝えよう法の話」ではオゾンホール、ダイオキシンの環境問題、金子みすゞ「すずと小鳥とそれからわたし」、乙武洋匡「五体不満



# 中国管区教化センター平成12年度行事予定

4月10日～11日	全国教化センター役職員連絡協議会
4月18日	教化センター企画委員会
5月	教化センター布教師協議会
5月	曹洞宗婦人会中国管区役員会
6月22日～23日	青少年教化指導者研修会
7月4日～5日	管区役職員人権学習会
7月26日～28日	第16回親子ゼンインサマーセミナー
9月12日～13日	布教協議会・講習会
10月3日	禅をきく会 島根第2
10月3日～4日	中国管区集会
10月20日～21日	曹洞宗婦人会中国管区研修会
11月	教化センター運営・企画委員会
11月13日～14日	全国教化センター役職員連絡協議会
11月30日	禅をきく会 山口
H13年1月	教化センターだより 17号編集会議
2月5日～6日	中国管区布教委員長会議
2月	島根県布教講習会
未定	布教師特設検定(四国)

## 青少年教化指導者研修会

日 時 平成12年6月22日(木)正午受付13時開講  
～6月23日(金)正午まで 1泊2日  
会 場 島根県大田市「国民宿舎さんべ荘」  
講 師 未 定  
参 加 費 10,000円  
対 象 青少年教化員・青少年教化を志す宗侶  
申 込 先 各宗務所  
お問い合わせ 教化センター

## 布教講習会

日 時 平成12年9月12日(火)正午受付13時開講  
～9月13日(水)正午まで 1泊2日  
会 場 島根県大田市「国民宿舎さんべ荘」  
講 師 未 定  
参 加 費 10,000円  
対 象 布教師・宗門僧侶  
申 込 先 各宗務所  
お問い合わせ 教化センター

【道元禅師ご生誕800年慶讃特別企画】

## 親子で学ぼう —永平寺雲水体験—

《開催期日:7月27日(木)～29日(土)》

会 場 大本山永平寺  
福井県吉田郡永平寺町志比5-15  
募集人数 100名  
参加費 大人 12,000円/子ども 6,000円

●参加申し込み「案内書」請求先  
〒381-0043 長野市吉田3-12-3 永祥寺内  
曹洞宗北信越管区教化センター宛  
☎026-244-7901 ☎026-244-7877

# 『仏事をなす』

その時、“微笑み”がこんなにも美しいものだということ、青山俊董老師は体現しておられました。老師は、こぼれるばかりの笑みを私どもに向けられながら、中国管区婦人会研修会のご講演を始められました。二日間におたるとご講演は、私ども婦人会員に仏教徒としての在り方を示唆してくださる貴重なものでした。



「典座教訓」に学ぶ(人生をどう料理するか)という演題での講演で、私が最も感銘を受けたのは、「仏事をなす」という言葉の解釈でした。私は、「仏事をなす」ということは、お経を読んだり、写経をしたりすることだと考えていました。しかし、それは「ほとけ」という文字にこだわった私の見えであることに気付かせていただきました。「典座教訓」の巻頭に「仏家に本より六知事あり、共に仏子たり、同じく仏事をなす。」と言う一文があります。老師は、この一文について、どんな仕事であつてもそれぞれに与えられた配役に徹することがすなわち『仏事をなす』ことであると教えてくださいました。

今でも、私が苦笑いしてしまうのは、お経を読んでもお布施の中身を考へているのでは仏事をなすことにならないという老師のお言葉です。私どもは、ともすれば形だけ仏事をなしてしまいがちです。どんな配役であつても、その配役に身も心も徹することが仏事をなすことであるという自覚が大切だと思ひます。とても難しいことですが、日常生活での自分の心掛け次第で、私自身にも『仏事をなす』ことを実践することが出来ます。人生の中で、その時々自分に与えられた配役に徹することを肝に銘じ、お釈迦様のみ教えに



従つて、今ある命を燃焼してこれからの人生を歩んで行きたいと思ひます。青山老師の仏事をなしている修行者としての笑顔と好天に恵まれて、中国管区婦人会研修会は幕を閉じました。私の中に、身も心も清々しくなるような風を残して。合掌



## センター布教師

岡山	$\frac{6\text{教区}}{179\text{番}}$	長安寺	久保孝道	津山市西寺町52	☎ (0868) 22-6878
広島	$\frac{8\text{教区}}{151\text{番}}$	多聞寺	雲井亨拳	庄原市市町723	☎ (08247) 4-0809
広島	$\frac{3\text{教区}}{58\text{番}}$	宗光寺	垣井龍顕	三原市本町1972	☎ (0848) 62-4719
山口	$\frac{2\text{教区}}{37\text{番}}$	安養寺	渡辺勝人	防府市新田古前1246	☎ (0835) 22-1865
山口	$\frac{3\text{教区}}{72\text{番}}$	真福寺	大野恭史	新南陽市福川中市町6-27	☎ (0834) 62-2760
鳥取	$\frac{7\text{教区}}{151\text{番}}$	安国寺	森下慈孝	米子市寺町50	☎ (0859) 22-3836
島根Ⅰ	$\frac{1\text{教区}}{236\text{番}}$	宝隆寺	和田善明	邇摩郡仁摩町宅野町1355	☎ (08548) 8-2790
島根Ⅱ	$\frac{9\text{教区}}{187\text{番}}$	養善寺	西古孝道	大原郡木次町湯村900	☎ (0854) 48-0371

## センター役員

統監	松原徹心	光善寺	〒755-0035 山口県宇部市西琴芝2-1-46	☎ (0836) 21-5465
主監	村上邦雄	摩訶衍寺	〒722-0202 広島県尾道市原田町梶山田4338	☎ (0848) 38-0656
賛事	宇田治徳	雙照院内	〒723-0045 広島県三原市田野浦町1218	☎ (0848) 62-4550
賛事	中山尚三	源樹寺内	〒716-0121 岡山県川上郡成羽町成羽3217	☎ (0866) 42-2630

